

# 日本中国学会会報

NIPPON CHŪGOKU GAKKAI

2000年(平成12年)

4月20日

第1号

〒113-0034 東京都文京区湯島1-4-25 斯文会館

TEL 03-3251-4606

FAX 03-3251-4853

されど、こぞの雪、今いずこ？

理事長 福井 文雅

1968年8月下旬から9月初旬にかけて、第一屆国際華学会議が台北で開かれた。中国側には張羣、孫科、唐君毅、徐復觀、あのCC団の陳立夫(実に好々爺であった)、潘重規、方豪、楊家駱と言う今や歴史に残る大家が名を連ねており、日本からは岸辺成雄、窪徳忠、小林高四郎、鈴木由次郎、麓保孝の諸先生と私と、大谷大学の安藤俊雄先生を団長とする小グループ、それに欧米、韓国からの学者達が招かれて加わっていた(この会議については、1969年3月4日の『讀賣新聞』夕刊に慶応大学の佐藤一郎教授が「台湾は中国文化研究の宝庫」として紹介している)。

その時私はフランス留学から帰国して数年後の34歳。台北の保安宮で中元の道教儀礼を初めて見る事ができた。続いて、76年には榎一雄東大教授の仲介、アジア国会議員連合APU日本支部の派遣で、第二回亜州学者會議に当時の首相岸信介氏の親書を携えて参加、台北空港から戦闘機に四方を護衛されて、金門島要塞に飛び、招宴も受けた。司令官から頂いた金門島名物の白酒が忘れられない。

翌78年と79年には文部省特定研究の補助を受けて、中国宗教の現地調査研究のために、シンガポールと東・西のマレーシアに赴き(私はマレー語を *Learn today, travel tomorrow* 叢書で独習して行った)、華人仏教の中心地マラッカで仏教青年会から一場の講演を頼まれ、帰途台北に再び立ち寄った。83年は旧正月と春節を過しに家族して渡台。84年は現地の宗教調査のためにクアラ・ Lumpur から西マレーシアのクアラ・カンサール奥地、85年はソウル市、86年はバンコックの中華街からアユッタヤへの出張であった(この三回は少女児連れ)。

その間を縫って西欧への学会出張も、殆ど毎年であった。これ以後もつい最近まで似たような毎年であったが、何故このような私事を(文部省の公費出張が殆どであったが)並べたかといえ、かつては中国宗教の現地調査は北京周辺が普通であり、台湾や東南アジアへ出張と言え、多くの同胞からは誹謗され、僻地めぐり扱いをされたからである。

今では信じられないであろうが、その方達は、大陸よりも台湾や東南アジアにこそ旧中国の宗教や風俗が多く残っている現実を知らないようであった。マレーシアは、現地の華人の努力で普通話も普及しているのである。

日本人が何もしない内に、フランス人とアメリカ人は台湾や東南アジアの実地調査をすませ、膨大で詳細な報告と研究を出している。もう今から行っても遅すぎる。良い資料は皆な西欧の図書館や博物館に収蔵されてしまっているのである。フランス中世の詩人ヴィヨンの『遺言集』のリフレインの余りにも有名な句、*Mais où sont les neiges d'antan?* (されど、こぞ一去年一の雪、今いずこ?)を想起させられてならない。

何故、幕末の日本と同じような事態が、今日の日本にも起こってしまったのか? それは、ほとん

どの学者がいわば自己規制で、北京詣でをくり返し、政治的な理由から妙に遠慮して、学問上では研究すべき、行くべき地方を省略したからであった。

私が34歳で渡台の時、明代から台湾だけに残る道教儀礼の実際を見るつもりだと話すと、「あんな田舎に行ってしまうの?」と道教の大家(故人)から冷笑されたことを、今もって私は忘れない。

私は両親が北京留学の時、母の胎内に宿ったものである。だから、東南アジアの華人街と同じく、北京の胡同の旧居も懐かしい。一方に偏った見方には、肉体的にも与ることができないのである。

## 報 章

### ◎理事・評議員の繰り上げ当選について

会則第13条により、下記の会員が繰り上げ当選しました。

【理事】 中部地区 今鷹 眞 近畿地区 北岡 正子

【評議員】 中部地区 杉山 寛行 近畿地区 池田 秀三

### ◎役員改選について

平成12年度の学術専門委員は、選挙により、下記の会員に決定いたしました。

(五十音順)

相原 茂	池田 知久	池田 秀三	石川 忠久	大上 正美	加地 伸行
川合 康三	興膳 宏	合山 究	小南 一郎	坂出 祥伸	高橋 均
田仲 一成	戸川 芳郎	中嶋 隆蔵	福井 文雅	堀池 信夫	松浦 友久
丸尾 常喜	丸山 昇	三浦 國雄	溝口 雄三	向嶋 成美	望月 眞澄
吉田 公平					

### ◎平成12年度選挙管理委員について

平成12年度の選挙管理委員は、下記の会員に委嘱されました。

(五十音順 \*は重任)

\*清水 浩子 高屋 亜希 竹下 悦子 \*戸川 芳郎 \*藤井 省三 \*丸山 昇  
\*山田 利明 \*遊佐 昇

◎本年度の学術大会は、東京大学が準備会を担当し、東京大学本郷キャンパスにおいて、10月7日(土)～8日(日)に開催されます。(大会準備会からの案内状が同封してあります。)

◎『学会報』第51集の編集担当校は、北海道大学(責任者は伊東倫厚会員)に委嘱されました。

第51集の〈学会消息〉欄の原稿は、記入責任者から北海道大学文学部中国哲学研究室(〒060-0810 札幌市北区北10条西7)宛にお送り下さい。資料は平成11年1月から12月までのものとします。

『学会報』第52集の〈学界展望〉執筆校は以下の通りです。

哲 学 大東文化大学文学部中国文学研究室・代表：倉田信靖会員  
(〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1)

文 学 筑波大学文芸・言語学系中国文学研究室・代表：向嶋成美会員  
(〒305-8571 つくば市天王台1-1-1)

語 学 慶應義塾大学文学部中国文学研究室・代表：岡晴夫会員  
(〒108-0073 東京都港区三田2-15-45)

〈学界展望〉につきましては、資料現物の送付とは別に、会員各自同封の用紙（二種類あり）により自己申告していただくことになっております。申告なさる方は、用紙に記入の上、同封の封筒を利用して4月末日までにご返送下さい。郵送費は各自ご負担願います。なお、申告が無い場合は、取載漏れとなることがありますのでご注意下さい。また、研究論文目録として掲載不相当と思われるものは、執筆担当校の判断で割愛されることもあります。

訃 報

昨年度会報第2号発行以後、次の会員が逝去されました。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（敬称略）

高木 友之助（関東） 山田 琢（中国・四国）

◎会費納入について

会費未納の方には振替用紙を同封致しますので、至急ご送金願います。なお、数年にわたって未納の方は特にご注意願います。4年にわたって滞納されますと除名となります。

（郵便振替口座：00160-9-89927）

◎『学会報』送付停止について

前年度会費未納の（第52集の場合は平成11年度会費）方には『学会報』を送付致しません。会費納入が確認され次第、送付いたします。また、納入の際には、振込用紙通信欄に未送付の『学会報』の号数をご注記下さい。

◎新入会員の紹介について

次回の新入会員の審査は、平成12年度第一回理事会において行われます。つきましては入会申し込みのご紹介は、4月末日必着にてお願いいたします。期限を過ぎて到着した申込書は、10月理事会での審査を受けることとなります。

◎住所変更について

住所・所属機関等の変更は速やかにご通知下さい。通知は書面もしくはFAXにてお願いいたします。電話および会費振込用紙でのお届けはご遠慮ください。

## 新会則による評議員選挙についてのお知らせ

下記の「選挙規約」により、本年6月に評議員選挙が行われます。

### 「選挙規約」

1 会則第11条による役員の内選は次の如く行う。

(1) 評議員

通常会員により、無記名で10名を連記して投票し、上位50名を当選者とする。ただし北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の各地区の会員2名を含むこととし、上位50名の中に当該地区選出者が2名に満たない時には、当該地区会員の最高得票者と次点者とを順次評議員に加える。また女性の評議員会参加を促進するため、今後2003年までは二期4年間に限って女性会員最高得票者から第5位得票者まで5名を評議員に加える。

(2) 理事長

評議員により、無記名で1名を単記して投票し、最高得票者を当選者とする。

(3) 得票数の同じ場合は、年長者を当選者とする。

2 役員選挙は選挙管理委員会が管理する。ただし、選挙管理委員会の規約は別に定める。

3 各当選者は、総得票数によって決定する。

なお、投票用紙等の発送は6月中旬を予定しております。